平成28年度　調査研究報告書

名古屋都市センターにおいて平成２８年度の研究成果をまとめた調査研究報告書が完成しました。
平成２８年度の研究テーマは以下のとおりです。

【一般研究】（センター職員等による調査・研究）

●人口減少時代における都市緑地に係る調査

●中川運河の風景生成に向けた新たな仕組みについて

●都心部における空閑地の活用方法に関する研究

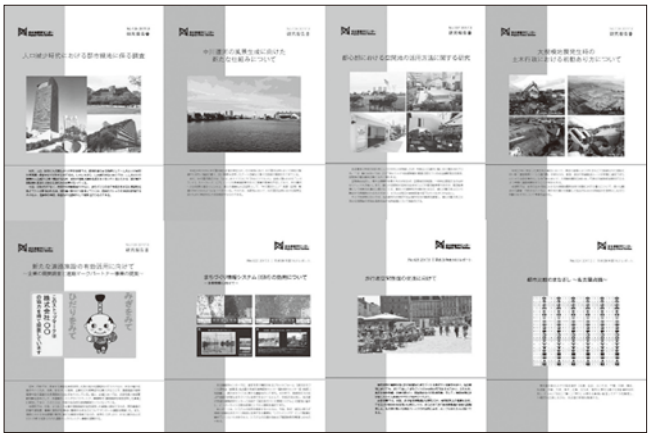
●大規模地震発生時の土木行政における初動のあり方について

●新たな道路施設の有効利用に向けて
　～企業の需要調査と道路マークパートナー事業の提案～

●NUIレポート まちづくり情報システム（ISM）の効用について

●NUIレポート 歩行者空間整備の促進に向けて

●NUIレポート 都市比較のまなざし ～名古屋点描～



平成28年度調査研究報告書及びNUIレポートの冊子をご希望の方は名古屋都市センター調査課までお問い合わせください。（TEL：052-678-2216）

詳しい研究報告内容については、名古屋都市センターウェブサイト（http://www.nup.or.jp/nui/investigation/result.html）に掲載の研究報告書をご覧ください。

■ 一般研究

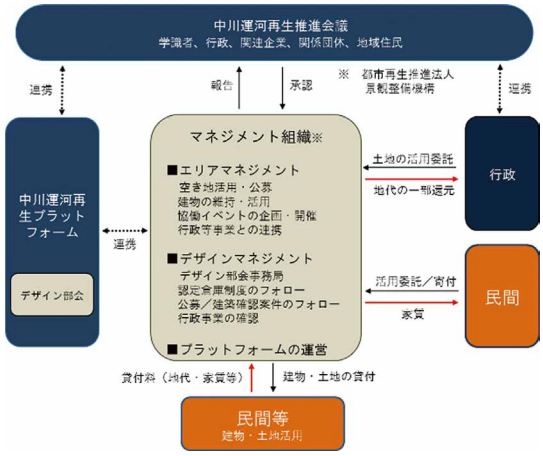
研究テーマ　中川運河の風景生成に向けた新たな仕組みについて

元名古屋都市センター調査課　奥 貴正

●研究の背景・目的

2012年10月に中川運河再生計画が策定され、その実現に向け、中川運河沿岸において緑地の整備やにぎわい施設の導入、古い倉庫を活用したアート活動など様々な取組が展開されています。また、中川運河周辺では、「ささしまライブ24」や「みなとアクルス」、金城ふ頭における「レゴランド」、「メイカーズ・ピア」といった商業施設等が次々と開業を予定し、中川運河への注目度の高まりとともに、都心の貴重な水辺空間として、“中川運河らしい”風景（空間）整備が求められるようになってきています。

本研究では、改めて行政関係者や学識者の方々の協力を得ながら、中川運河沿岸における風景生成のための具体的な方向を検討しました。



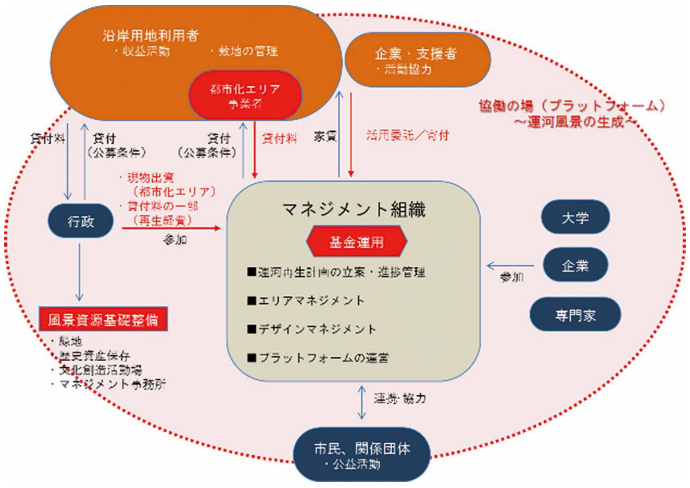
●合意形成・運営方法（マネジメント）

中川運河の風景生成は、行政をはじめ建築・デザイン等の専門家や中川運河や近隣で活動する人々が一体となって公共空間である中川運河とその周辺のまちづくりに取り組んでいく必要があり、そのような体制づくりが、中川運河に関わってきた人々から求められています。

このような街を創造する拠点として、デザインマネジメントやエリアマネジメントを公・民・学が連携し行うアーバンデザインセンターが全国に設立され、様々な取り組みが進められています。

中川運河においても、このような事例を参考として、現在の取り組みを基本とした新たなマネジメント体制の構築を提案するものです。

当面は1st stepとして、新たなマネジメント体制が構築し易いよう、既存の枠組みを活用・発展させることとし、最終的には2nd stepとして新たな組織によって、計画策定・進捗管理から沿岸用地貸付を始めとする運河全体のデザインマネジメント等について行政に代わり関わっていく仕組みの必要性を提案しました。



■ 一般研究

研究テーマ　都心部における空閑地の活用方法に関する研究

名古屋都市センター調査課　中島 壮太郎

●研究の背景・目的

名古屋市では今後、人口減少に転じると推計されており、空閑地も増加傾向が続くものと思われ、点在している状況にあります。さらに、様々な規模や形態のものがあり、人口減少という将来動向のもとで、空閑地を一体的に開発するにはかなりハードルが高いと言えます。また、平成27年度名古屋都市センターの空閑地に関する調査研究において、都心の空閑地のほとんどが青空駐車場であることが明らかになりました。しかし、空閑地が青空駐車場として利用され増大し続けることは、都心の魅力向上の観点から問題視され、周辺の資産価値の低下にもつながりかねません。

そこで本研究では、名古屋市内の現状や市内外の事例を調査し、都心の魅力向上に向けた空閑地の有効な活用方法や活用の促進方策について検討しました。

●主な内容

【空閑地の活用事例】

他都市の先進的な空閑地活用事例について、現地視察と担当者へのヒアリング等（カシニワ制度、深谷ベース、COMMUNE246）を踏まえて、概要と効果、課題を整理しました。

また、その他の名古屋市内外の事例も含めて、活用の期間・所有形態・主体・内容・目的・公益性等の項目で整理しました。

写真 カシニワ制度の事例土地

写真 COMMUNE246

【空閑地活用のケーススタディ】

ケーススタディの前提として、活用検討のプロセスについて、どのような事項について配慮すべきかを、①空閑地属性の把握、②活用方法の検討、③公益性の確認、④支援策の検討、の順に表にしました。

ケーススタディでは、西区那古野一丁目、東区泉一丁目、中区栄三丁目の3地区を選定しました。空閑地の活用を検討するにあたり、特定の地元居住者及び関係者に地区の課題や空閑地に対する考えなどについてヒアリングし、その要点を整理しました。さらに、各地区の空閑地の活用の大まかな方向性をまとめ、各地区とも敷地形状の異なる2ヶ所の空閑地に着目し、それぞれの活用イメージをまとめました。

【空閑地の活用促進に向けて】

空閑地の活用促進のために必要な事項として、「データベース化」、「既存制度の応用活用」、「インセンティブ」を取り上げました。

さらに、街区全体での計画策定も重要であり、これまで地域ごとに築いてきたインフラストックや歴史的ストック、歴史的背景等を踏まえ、街区全体の価値を高め、適正配置をしていく視点が必要です。特に青空駐車場については、まずは必要な容量の街区内再配置ということを検討すべきであり、地域が街区全体の方向性を展望するために地域まちづくりの推進やエリアマネジメントを取り入れることも、空閑地を活用促進するために重要です。

■ NUIレポート

テーマ　歩行者空間整備の促進に向けて

名古屋都市センター調査研究アドバイザー　羽根田 英樹

ニューヨーク市ブロードウェイの恒久的な広場化事業が2016年12月に竣工し話題となっている。一方、名古屋の都心では、広小路通の歩道拡幅や南大津通で復活した休日の歩行者天国が出現してきているものの、伝統的アーケードを備えた大須や円頓寺の商店街を除けば、恒久的な歩行者交通優先の道路は実現しておらず、道路を自動車交通主体から歩行者交通主体にシフトしていく動きはいささか鈍いように思われる。そこで、道路にかかわる歩行者空間整備の動きを一層後押しできるよう、本レポートにおいて、歩行者空間整備の意義・必要性・効用を、具体的な事柄に基づき、以下のように整理した。

- 歩行者空間整備は自動車利用から歩行への転換を促し、CO2を削減し地球環境の保全に貢献する。
- 歩きやすい環境や美的で気持ちの良い環境の存在は、歩行を促し健康増進に貢献する。
- 歩行者空間の拡大は歩行者を増大させ、商業活性化・小売店販売額の増大に貢献する。
- 歩行者優先の都市づくりをしている都市ほどGDPは高い。
- 都市景観の向上に寄与する歩行者空間は居住者の満足度を高め、経済活性化に不可欠なクリエイティブ・クラスを都市に引き付ける。
- オープンカフェなどの豊かなストリート文化が繰り広げられる空間は、クリエイティブ・クラスを魅了するとともに、都市の主要な訪問目的地ともなり地域を活性化する。
- 多くの欧州都市の都心では、歩行者系道路が整備・拡張されている。

このように、歩行者空間整備は地球環境の保全、都市の活性化、健康増進、クリエイティブ環境の形成など、多くの都市に共通する都市政策に寄与するもので、同様な都市政策を持つ名古屋にとっても、都心においては以下に図示した特質を踏まえながら歩行者空間整備に取り組むことが重要であろう。

「月刊誌Kelly」紹介スポット（1987～2012）

エリア
商店
お勧め観光スポット（各種情報サイト）

従業者密度の高いエリア	賑わい施設割合 40%以上	自動車交通の少ないエリア

参考：「なごや交通まちづくりプラン（2014.9）」